

「意思あるお金」で、地域の夢を未来へつなぐ

物語に「共感」のチカラを。文化を支える3つの応援

～心を動かすクラウドファンディング最新事例をご紹介します～

株式会社グローバル・クラウドファンディング

▶今回は映画や音楽といったエンターテインメントを通じて、文化を次世代へつなぐ取り組みをご紹介します。阿蘇の草原から生まれたドキュメンタリー、震災10年の祈りを音楽にのせた公演、全国のファンが支えた映画ファンド。表現を生み出す人と、それを応援する人の想いが重なって創る力強いストーリーをお届けします。

映画を応援

ドキュメンタリー映画『村で生きる』—阿蘇の草原に生きる親子の記録
～産山村のあか牛の神様・井信行さん 現役、最後の夏～（募集中）

寄附型 | プロジェクトオーナー：映画『村で生きる』製作実行委員会 | 目標200万円



阿蘇の外輪山のふもと、熊本県産山村。信号機もコンビニもない静かな村に、“あか牛の神様”と呼ばれる牛飼、井信行さん（90歳）がいます。霜降り肉が主流となった時代にあっても、信行さんは草原の循環を信じ、牛と人、草がともに生きる営みを70年以上守り続けてきました。昨年現役を退き、その背中を見つめてきた息子・雅信さんが受け継いでいます。親子二人が暮らすこの村で、草を刈り、牛を放ち、季節とともに生きる日々を4年間に渡って追ったドキュメンタリー映画が『村で生きる』です。

この映画をより多くの方に届けるため、上映や配信に必要な整備・広報の費用を募集しています。

映画『村で生きる』のストーリー

草原が幾重にも重なり、赤褐色の牛たちがのんびりと草を食む。ここは阿蘇連山を南に遠望する熊本県・産山（うぶやま）村。信号機もコンビニもない小さな村に“あか牛の神様”といわれる牛飼がいる。

井 信行さん（当時86）は、「牛は草で育つのが本来の姿」を信念に、牛と人と草原がつながる循環の形を守り続けてきた。しかし年々あか牛は減り、村は

過疎が進み、あか牛も減り、村の循環も壊れてしまった。そんな中、ある初夏の日の想いを抱く信行さんと、偉大な背中を見てきた息子・雅信さん。親子の日々を見つめた、ある初夏の記録。



以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより

アクセスをお願いします。

井さん親子の姿を記録し、地域の資源を生かした農業に共感してくださる仲間を増やしたいという想いが込められた本作は、第40回農業ジャーナリスト賞、東京ドキュメンタリー映画祭の長編部門を受賞し、各地で上映も広がっています。この映画をより多くの方に見ていただき、草原の循環を感じるきっかけになればと願っています。

[ご入会はこちらから](#)

（入力は数分で終わります）

[会員の方ははこちらから](#)

